

[JSCA カヤックベーシック検定 報告書]

鹿児島県屋久島会場 2019年2月22日-24日

主管 屋久島カヤックツアー KAZE/今野正幸

私の活動する鹿児島県屋久島町では、自治体主導による屋久島町公認ガイド制度が整備されつつあり、3年程前より試験運用、今年春より本格的に施行されていく予定である。町公認ガイドは山、カヤック、ダイビングなどカテゴリー別に分けられており、カヤック部門はJSCA(ベーシック以上)、JRCA(ジュニア以上)いずれかの資格所持が必要とされる。今回受検した3名の参加者は全員、この町公認ガイドへの申請の為に資格が必要となり、受検を希望してきた。

参考までに受検生はそれぞれ、ガイドキャリア15年、5年、2年ほどであった。ガイド歴2年の方はカヤック歴ほぼ無し(体験5時間程度)カヤックのガイド経験は全く無い状態での今回の受検だった。私としては受検生全員に資格を取得して欲しかったし、ガイドとして活動する以上最低限のスキルは取得しておいて欲しかったので、全員に事前講習を勧めて受講してもらった。事前講習を見た限りでは、技術・知識・指導とも、やはり合格が際どいレベルの方もおられたので、合格する為のスキルを最低限出来るようになるまで丁寧に指導した。

当初、初日に事前講習をする予定だったが、悪天候だったため、二日目に予定を変更し初日に座学講義3科目とペーパーテストを実施した。座学は出来るだけ試験内容に沿って進め、他は受検生の活動水域やツアー内容、使用器材などに関し、今後必要と思われることを重点的に指導した。座学に関して、全員が既に山を中心にガイド活動をしておられるメンバーなので、総論や安全に関しては理解力が高かった。半面パドルスポーツの知識面ではカヤックの基本的な用語をあまり知らなかったり、器材の使い方などの知識が浅い方も見受けられたので、その点は補足指導した。反省点が一点。パドルスポーツ知識は午後眠い時間帯だったので、飽きさせぬよう屋外へ出て実際の器材を使って講習をしたのだが、つい時間を忘れて話すぎ、30分ほど講義時間をオーバーしてしまった。次回開催する際には時間配分への配慮をもっと改善したい。なお、ペーパーテストの点数は全員問題無く高得点だった。

三日目最終日はあいにくの雨模様になってしまった。模擬講習など陸上で出来る検定部分は屋根のある場所を選んで実施した。水上検定、安全講習の会場は出来れば受検生の活動水域である安房川で実施したかったが、雨天で肌寒く水温も非常に低かった。参加者のウエアリングも適切とは言えず、低体温症の恐れがあったので静水の港へ移動して水温の高い海水域で実施した。実技検定は前日の事前講習を踏まえ、全員がかなりスキルが改善され、全員合格レベルには達していた。水上安全講習ではガイドとして最低限セルフレスキューとグループレスキューが出来て欲しいので、やり方をまずデモで説明し、その後全員で実際に訓練した。また、それぞれに持ち

寄ったカヤックが何種類かあったので、艇種の違い(シットオン・隔壁の無いシットイン・隔壁有りのシットイン・短めのシーカヤック)による、レスキューのやり易さや、難しさを実際に体感してもらった。他に講習したことは、トゥーラインやカウテールの正しい使い方やリスクの説明、カヤックドリブル、カヤックの排水方法のコツなど。それとリバーガイドとしてぜひ装備して欲しいスローバッグの正しい使い方の講習と訓練を実施して、水上講習を終了した。そして上がって着替え片付けをして検定結果の発表と振り返り(フィードバック)を実施した。水上講習での反省点としては、雨で気温も低く風もそこそこ吹き、体が冷えて早めの終了となってしまったこと。暖かければもう少し色々なことを試しておきかった。しかし参加者は座学でも話した、天候や季節による適切なウェア選択といった意味を、身を持って体感する結果になったので、ある意味教訓になったようにも思います。

まとめ。屋久島町内で私が実施したベーシック検定は今回が2回目でした。初回だった前回よりは私自身も検定に慣れ、まあ無難に終了することが出来たように思います。参加人数も初回、今回とも参加者3名で人数的にもちょうど良かった。私独りで実施して丁寧に指導するには多くても5~6名程度までかな?といった印象です。また、2回の検定を通して実感するのは、やはりただ検定をして資格を取らせるだけではなく、事前講習や安全講習に重きを置いて、しっかりとインストラクターとしての知識や技術を身に付けて帰って頂くことの重要性和、資格発行後も相談に乗ってあげたりケアをしてあげることです。ベーシックイントラといえど、資格取得すればJSCA公認校として登録出来るわけで、安易な資格発行を増やすことは組織として危惧すべきことでもあると思います。